

3月23日 竹田小学校 閉校式並びに閉校イベント

閉校式次第

オープニング

～ふるさと竹田へ 子どもたちからのメッセージ～

開式

国歌

丹波市長式辞

丹波市教育委員会挨拶

学校長挨拶

来賓挨拶

電報披露

児童のこぼれ

校歌

校旗返納

閉式



大正時代の運動会の様子



大正14年10月新校舎落成記念



昭和30年2月開校八十周年記念



昭和45年9月竹田小100周年
町民運動会



昭和52年校舎



平成元年校舎竣工式



平成元年5月校舎



平成26年8月丹波市豪雨災害



令和5年11月校内音楽会(6年生)

竹田小学校 校歌

作詞 植木 孝之助

作曲 不詳

- 1 天そるる 高谷山の
老松の 緑色こき
操もて 朝な夕なに
師の教え 親のいましめ
身にしめて 励みはげまん
頼もきき この学び舎
- 2 八千代ふる 竹田の川の
変わりなき 誠をもちて
平和なる 里きずかんと
育ちゆく 庭のふたばは
根に愛の 光うけつつ
うるわしき 花と咲きでん



令和5年12月遊具前にて





竹田小学校閉校式典には、児童・地域・保護者・関係者を含め、約400名の参加がありました。学校にあるパイプ椅子を全部出していましたが、それでは足りず、立ち見の方も多くいらっしゃいました。また、市長・教育長をはじめ多くのご来賓の方々にお越しいた

だきましたことに感謝申し上げます。

学校長あいさつでお話しした一部を紹介します。

明治7年5月、一宮神社の一室に「集成舎」という学問所が創設されたのが竹田小学校の始まりです。幾多の変遷を経て、平成16年からは「丹波市立竹田小学校」として、歴史を刻んできました。

竹田の地を見渡せば、高谷山に竹田川、豊かな自然や地域資源に恵まれています。竹田川や塩津峠を通り、北へ向かえば京都や但馬へと、また南へ向かえば阪神地域へと、県の南北をつなぐ要地として、昔から道路・河川・経済が栄え、文化的にも多くの業績があったことが伺えます。

竹田の歴史を紐解けば、国の学校教育制度に先んじて初等教育学舎を創設し、竹田村の学校教育の祖と言われる中澤致一氏、私財をもって難民救済に手を差し伸べ、愛育堂を開設した児童福祉の先駆者、大野唯四郎氏、竹田小学校で教鞭をとるだけでなく、全国各地の学校に赴き、芦田七変化と呼ばれた国語教育の実践家、芦田恵之助氏、四季の移り変わりを五七五に表現し、竹田・丹波の地に俳句を広めることとなった西山泊雲氏をはじめ、多くの方々がふるさと竹田の地に残された業績は、今も脈々と受け継がれています。

歴代の教育目標をみますと、「子どもたちの自主性」「自己判断」「挑戦する力」と、将来、社会で活躍できる大人になってほしいとの願いを込め、様々な体験活動や国語科や体育科を核として、指導がなされてきました。

こうした子どもたちへの熱心な教育は変わらず引き継がれ、現在も愛情あふれる地域・保護者の皆様に包まれ、子どもたちは素直に成長してまいりました。

竹田小学校最後の年となった令和5年度は、じりつを合言葉にしてまいりました。じりつの力は子どもたちの学びや行動に現われており、学年関係なく主体的に、また仲間と協働し、学ぶことができました。

児童会活動では、自分たちで企画をし、竹田小学校最後の一年を、充実した年につけてくれました。

私たち教職員は、子どもたちと一緒に学ぶことができたことを誇りに思うとともに、今後もこれまで以上に自分の未来を切り開く子どもたちの成長に向け、尽力していく決意を新たにしています。

今日子どもたちが歌った「あなたに会えて」の歌詞にこんな一節があります。『あなたにあえてよかった。だからわたしがいる』『竹田小学校に会えてよかった。竹田小学校で会えてよかった。だから今の私たちがいる』

今日はそんな思いを共有する1日になればと思っています。



閉校式の準備に際しては、市教育委員会担当者が中心となり準備頂きました。また、雨の中、駐車場や受付など多くの関係者の皆様にご協力いただいたことにも感謝申し上げます。



閉校イベントでは、児童会が地域の方々に募集したエピソードをもとにクイズを出す『竹田今昔クイズ大会』やコンサートなど楽しい時間を過ごすことができました。





ここまで竹田小学校ならびに竹田小学校生を育てていただきましてすべての皆様方に感謝申し上げます。

ありがとうございました。第38代校長 足立和宏

